

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部　グループホームA(2階)		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果確定日	平成25年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jigyosyoCd=4270202387-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成25年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保市中心部に立地し、交通の便が良く市役所や公共施設にも近く朝・夕の通勤・通学や犬の散歩などで顔なじみの方もいて、面会に来所しやすい環境にある。料理担当・グループホーム専任の看護師等スタッフが充実しており、忙しい時等は2階・3階のスタッフが応援できるよう教育されており、母体が隣接の病院の為NS・Drとも近い距離で、入居者様やご家族はもちろんスタッフも安心して頂いている。入居者様は外出や催し物を楽しみにされ、日中もリビングで和気あいあいと仲良く楽しく生き生きと過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は医療法人が運営しており、病院に併設している。利用者の高齢化と重度化が進んできているが、併設病院のかかりつけ医との連携が充実しており、夜間帯も緊急時には看護師が対応し、近隣に住んでいる理事長に報告する体制が整っている。地域の行事に参加したり、近隣の中学校運動会への見学や、学生の職場体験の受入をして地元との交流も積極的に取り組んでいる。また、佐世保くんちの踊町に立地しているため、ホームで出し物を披露してもらっている。
職員は、設立時からの職員が多く、離職率が低い職場であり安定した介護の提供ができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、毎朝声に出して仕事に対しての意識付けを行い、お互い助け合いながらチーム一丸となるケアを目指している	毎朝理念の唱和を全職員で行い、事務所にも掲示しており全職員に周知している。また、年に1度カンファレンス内で達成できていない部分の改善をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、事業所周辺の公共機関や近くの店舗での買い物や外食等、地域の方たちと関わりながら積極的に交流している	近隣の食事処へ外出したり、パン屋から朝食のパンを購入し、積極的に地域との交流を図っている。また、併設の病院も地域に開放しているところから地元との繋がり強い施設である。	地元自治会に加入していないので今後加入する事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修生・実習生・学生ボランティアを快く受け居れたり、常時施設見学、相談を受け付けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期の運営推進会議にて現状を話し合い、より良い意見や提案を聞いてサービスの提供に生かせる様努力している	運営推進会議出席者に利用者と一緒に食事して頂き、現場の雰囲気を経験してもらえるような工夫をして会議を行っている。また、委員から提案があったAEDの設置や、ホームの避難場所の提供などすぐに対応している。	運営推進会議の出席者の中に、行政の方や地元自治会からの参加がないとのことである。今後、参加して頂けるような工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査で日常生活を伝えたり、研修の参加などにも参加できている	地域包括支援センターや市役所が開催している研修会等に積極的に参加し、参加した職員がハナレイ会議(勉強会)にて発表する等、情報の共有をしている。また、県・市からは100歳の表彰等でホームに来て頂き連携をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に危険を予測しながら入居者様の行動を束縛しない様、日中は全体が見渡せる所でカルテ記入を行い日勤者が所在確認を把握している。夜間は20時～8時までエレベーター施錠し説明と同意を得ている。又勉強会も行い拘束の理解・意識を高める様取り組んでいる	センサーマットを利用している利用者は1名いるが、夜間だけの使用であり、できるだけ使用しないように2ヶ月に1回の勉強会にて随時廃止に向けて検討している。また、玄関は昼間施錠しないようにし、開かれたホームを目標している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員は虐待防止法についての研修を受け、正しく理解し日々のケアや言葉使いに注意して、感情のままの虐待を行わないよう十分注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、成年後見制度について学ぶ機会があれば積極的に参加を希望し支援をしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者及び家族に、書面にて示し理解を得て不安がない様十分に説明を行う。又改定時もその都度書面と説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出入り口に意見箱を設置しており、家族からの要望や意見等がある時は職員全員で話し合い対応している。又面会時にも話しやすい環境作りに努めている	玄関に意見箱を設置して、家族からも気軽に要望を出しやすい環境を作っている。意見や要望が出た場合は、実行できる時は申し送りにて実践し、すぐに実行できない場合でも会議や勉強会で話し合い実現するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は常に事業所を訪問され、入居者様の様子や職員との会話を図られている。月一回のカンファレンスや全体のハナレイ会で意見交換や勉強会を行っている	年に1回、管理者による個人面談を行い、職員の悩みや希望を聞くようにしている。また理事長もよくホームに来所し、職員と話す機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの変化も見逃さず個人面談の場もある。毎年の昇給や休日の行事参加時は時間外手当がついて、又急な欠勤にも対応出来る様職員の配置や勤務を考慮している。有給も公休によってあり、働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内や希望を回覧や声かけにて募ったりして、職員のスキルアップを図っている。研修後はハナレイ会で発表・意見交換し全職員に伝えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会の参加や運営推進会議などの参加で同業者との交流を図り、意見交換を行いサービスの質の向上につながっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と本人の状況を把握し、施設見学時に他の入所者様の生活を見てもらったり説明をして不安感を与えない様親身になった対応に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に話しやすい雰囲気を作り、不安・要望に職員全員で共有・把握し答えられる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様のペースに合わせて、何が必要か変化時もその都度全員で話し合いより良い支援に努めている。又他のサービスや施設の相談にもものっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人がやりたい事や出来る事を他の方も交えて楽しくやれる様支援している。又レクリエーション時にも経験した事や話を聞き学ばせてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が安心される様、施設での生活ぶりや変化時はその都度報告したり、面会も楽しいひと時になるような支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたら、笑顔で迎えいつまでも関係が保てる様支援している。又外出や外泊も希望を聞き沿えるように努めている。ご家族の協力で外泊やお寺にも行かれている	知人が来所された際は、ゆっくり話をしてもらえように配慮をしたり、利用者が以前、住んでいた場所まで連れていくなど支援している。また、過去に利用していた理容院に来所してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が語らえる場面を作ったり、孤立しない様職員が声かけをして見守っている。又認知度の違いで失言があっても、穏やかで優しい声かけで仲間意識を持てる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院された時はお見舞いに行き、退院された後も相談があれば応じ、ご家族と情報を共有している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常やレクレーション時、心身状態や想いを把握し入居者様の希望される生活が出来る様話を聞き、有意義に暮らせる様支援している	入居時に本人の生活のパターンを聞き取り、一日の流れを把握するようにしている。日常会話や表情、様子などからも本人の希望や意向を汲み取るようにし、会話の中での単語がわからない場合は、家族に尋ね把握に努めている。聞き取った意向は、介護記録に記載し、申し送りをして職員全体で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や知人・ケアマネージャーなどに話を聞き、過去の生活歴やご家族の背景等を情報収集し、フェイスシートにまとめ把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い入居者様との会話の中で変化に気づき、情報交換で生活の向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で想いや気づきを、毎朝の申し送りや月一回のカンファレンスの中で話し合い、入居者様が寄りよい暮らしが出来る様介護計画を作成している	入居時のアセスメントにおいて、本人や家族の希望に沿った介護計画を介護支援専門員が主となり作成している。全職員は、介護計画に目を通し、申し送りやミーティングにおいて、意見を出し合い、介護計画に携わっている。3ヶ月に1回、見直しを行い、変化があった場合や、家族との面会時に出た意見などにも対応した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践を毎日チェックして、日々の様子や気づきをカルテに記録して、職員間で情報を共有しながら見直しを行いケアの実践に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や入居者様の要望等必要に応じて職員間で話し合い、一人ひとりに合った支援が出来る様努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の建物の利用や地域の情報誌などを活用したり、月一回の外出などで社会参加を行い、日々の生活に潤いを持って頂ける様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際かかりつけ医があるが確認し、隣接している病院への紹介も可能であり、ご家族で決定してもらい、変更後は日々の健康管理や医療連携で安心頂いている	入居時に受診についての説明を行った際、隣接の病院が協力医で、家族も安心できることから、利用者の希望により今までのかかりつけ医から事業所の協力医へと変更している利用者が多い。希望があれば、今までのかかりつけ医への通院介助も行っている。受診した際は、家族へ電話で報告を行っている。協力医は、往診にも対応しており、日頃から医師が出入りし、利用者と共に体操をしたり、お茶をしたりと安心できる環境が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師が週5日勤務し、管理者も看護師で毎日のバイタルチェックや異状を見逃さず、看護師へ報告・相談している。早期発見・受診へと支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院入院時はサマリーと日常の情報を提供し面会を行い不安と混乱をなくし、入院中は担当医と密に連絡をとり早期退院できる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人とご家族と方針を決めるが、重度化の場合その都度話し合い希望に沿える様にしている。重度化に関する指針・同意書も頂いている	以前は、入居時に看取りについての説明をし、医師が余命半年の診断があった場合に、看取りについての同意を得ていたが、今年より、全利用者に重度化した場合における指針の説明をし、同時に同意を得るようにしている。24時間体制で対応でき、看護師の指導のもと職員は、日頃からターミナルケアの学習を行っている。また、急変時の手順を全職員が慌てず対応できるように、わかりやすく記し掲示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	BSチェックやバイタル測定などで健康状態を把握しているが、急変毎の対応と夜間の緊急時に速やかに対応できる様マニュアルがあり、いつでも見れる様目の届く所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、時間帯や場所を変えたり入居者が参加の消防訓練を年2回行い、避難経路や消火器の取り扱い等の指導を受けている。非難場所も把握できている	夜間を想定した消火訓練、避難訓練を行っている。非常時に対応出来るよう、マニュアルに沿って非常用持ち出しの準備と家族の連絡先や利用者の一覧表、利用者の薬など必要なものを準備している。また、それらは、隣接の病院にも預けている。運営推進会議において、地域の方々にも協力をお願いし、隣の中学校が避難場所になっており、事業所も自治会からの要望で避難場所として開放している。その際の非常食やおむつ、毛布などの備品も準備も整っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、入居者様の想い等を聞き入れ一人ひとりに応じた声かけや傾聴して敬う気持ちを忘れない様に対応している。入室時は声かけとノックを心掛けている	2ヶ月に1回開かれるハナレイ会の中で、接遇に対する勉強会を実施し、利用者に対する言葉かけや対応に配慮している。居室に入るときには、声かけとノックをして、入ることやトイレ介助の際はドアを閉めるなどのプライバシーの保護にも心がけている。職員には、入職する際に個人情報の保護について説明、同意を得ており、ブログに載せる利用者の写真も利用者からの同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めないで、入浴や外出時の洋服を選んでもらったり会話をしながら入居者様の希望を優先して、自ら決定できる様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定を前もって伝え、その時の状況や入居者様の希望・体調等生活パターンに合わせて、決して無理強いしなケアを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服のコーディネートと一緒にしたり、外出時はお化粧をしている。美容は月一回ビューティヘルパーを利用したり、ご家族が馴染みの店へ連れて行かれたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つで、献立を立てる際食べたい物や好みを聞き季節感も取り入れ、見て食べて満足していただけるよう努力している	全職員が順番に食事担当として、担当日の献立を一ヶ月分立て、調理している。入居時に利用者の嗜好調査を行い、好き嫌いを把握している。また、日頃の会話や食べ残した物からも判断し、代替のもので対応している。また、テーブルセッティングや簡単な食材の下ごしらえ、下膳など利用者ができることを手伝ってもらっている。職員と共に会話し、楽しく食事をとる工夫がされており、月に一度の外食も利用者の楽しみの一つになっている。	家庭的なメニューで、職員の手作りの食事の工夫がされている。隣接の栄養士に協力してもらい、定期的に献立を見てもらうことで、利用者の栄養面や体重管理もできることから、今後、栄養士への協力を望みます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立チェックを行い偏った食事にならない様 バランス良く考え、摂取量のチェックを行っている。個々に合わせた形態や介助を行っている。水分も10時・15時・20時・リハビリや入浴後等適宜に行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台にて自力でできる方は見守り、できない方は介助や仕上げ磨き等一人ひとりに応じた口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し一人ひとりのパターンを把握して、殆どトイレでの排泄を行っている。ポータブルトイレ使用でオムツを使用しない様努めている	排泄チェック表を作成して、それをもとにトイレへの誘導を行っている。声かけをする際は他の人に聞こえないように心がけ、失禁時には居室にトイレがあるため、その場で着替えを行い羞恥心への配慮をしている。利用者によっては、夜間にパット交換を行っているが、日中はトイレで排泄が行えるよう、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やメニューの工夫・朝の体操を行い、排便チェックで便秘がちの方には十分な水分を摂って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴だが、本人のペースや湯の温度・その日の体調や気分に応じて無理強いない様にし、又入浴剤の使用や1対1の対応で職員との会話等楽しく入浴ができる様支援している	週に3回、午後からの入浴を基本としているが、入る順番は希望を聞いて、臨機応変に対応している。毎日入りたい、との希望があれば対応している。月初めには入浴剤を使い、また、入浴時の時間をコミュニケーションをとる機会とし、他の人の前では話せないことを聞いたり、一緒に歌を歌うなど楽しみながら入浴する工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず一人ひとりの生活習慣や食後の昼寝・就寝時間など好きなようにくつろいでもらい、安眠に心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方管理表を作り各自の薬の効能・副作用の把握に努め、変更や臨時薬の処方時は薬の名前・効能や理由など全員に伝えるようにしている。飲み忘れや誤薬がない様その方に合った支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事が決まったら楽しみがもてる様予定を伝えたり、日めくりカレンダーを毎朝めくって頂いたりお手伝い等、できる事をしてもらい感謝の言葉も伝えている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やご家族の協力もあり外出・外泊されて、月一度の外出時には希望される場所や季節を感じられる所に行き、社会性の継続に努めている	個別の外出は、希望にすぐ対応出来るようにしている。買い物の希望があれば、近くの市場やお店に出かけ、また、天気の良い日はなるべく外へ出かけるよう、声をかけ、誘うように心がけている。月に一回、遠出のドライブをし、外食やお花見など利用者の要望を聞き、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は所持され入居費やパットの購入もされ外出先での買い物もされている。管理できない方はご家族から預かり（預かり書発行）出納帳の確認や領収書を渡しコピーをとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもたれている方もいて、充電のお手伝いや郵便物の預かりや投函の依頼もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングやダイニングには大きな窓があり景色も良く、光をさえぎるロールカーテンが備わっており、全体的に白で統一されている為清潔感が感じられる。毎月季節が感じられる手作りの掲示物やベランダの植物等で快適な生活が送れる様にしている	大きな窓から、外の様子がよく見る開放的なダイニングには、たくさんの光が入り、ベランダで育てた花や、家族からの花など飾って季節感を出している。また、臭いがこもらないよう、換気を行い、居心地良い空間となっている。いろいろな行事の写真を掲示したり、季節感が出るような飾りつけをしたりして、楽しく過ごせる工夫がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室では読書やテレビ・本人のペースで過ごされて居る。リビングでは一緒にテレビを見たり談話等好みの場所で過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの時計や家具を持ち込まれ、個人で好きな飾り物や写真を飾られたりレクリエーション時の塗り絵や写真等を貼ったりされている	利用者本人が落ち着いて過ごせるよう、ベッド以外の使い慣れた椅子やタンスなどの持ち込みに対応している。また、ぬいぐるみや位牌の持ち込み、家族の写真や、好きな歌手のポスターを貼るなど自由に使えるよう、居心地良い居室づくりをしている。本が好きな人には職員が図書館で借りてくることもあり、居室で、その人なりの過ごし方が出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室には解りやすく表示したり手摺りを設置し、出入り口にはセンサーマットを敷いて危険を回避している。夜間はその方に合った灯りを調節している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部　グループホームB(3階)		
所在地	長崎県佐世保市城山町3-21		
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果確定日	平成25年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4270202387-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成25年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後スタッフ全員で声を出し理念を読み上げ、理念に沿った支援ができるよう再認識している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、施設の行事に参加してもらったり等の交流や、日々の散歩での笑顔で挨拶・お買い物やケーキ・弁当等も地域のお店を利用している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修生や学生ボランティアの受け容れを行っている。認知症の勉強会を行った事もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スタッフには、運営推進会議の資料に目を通して他、カンファレンスでも報告を受けている。改善が必要な場合はすぐに話し合いを行いサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にケアマネージャーを通じて連携をとっている。地域包括センターの方にも運営推進会議に出席頂き協力関係を築いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度は身体拘束についての勉強会を開催している。エレベータの施錠も夜間にとどめ、利用者それぞれにあった対応を心掛け拘束する事がないよう目配りや所在確認を怠らない様に努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度は勉強会を開催している。言葉使いに注意し防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数回勉強会を行った。以前成年後見制度を利用されていた方もあった。これからも必要がある場合説明等を行っていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、時間をかけ十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時には会話を心がけ意見・要望を聞き、スタッフにも申し送りをして、安心して頂くよう対応している。ご意見箱の設置もしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を設け、直接伝えたり提案できる。 月一回のカンファレンス・2ヶ月に一回のハナレイ会等でスタッフ間の意見交換もできている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの能力を把握し、楽しく働ける様有給休暇や定期昇給もあり、職場環境の整備に努め相談にも応じられている。スタッフの良い所を伸ばしてくれる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	回覧を通じ生きたい研修や、勉強会には行けるようになっている。またそのスタッフに応じた研修を勧めステップアップできている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や研修会などで交流を持ち、お互いにサービスの質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階より会話を通じコミュニケーションを多くとるよう心がけ、不安や要望等を把握しその都度その要素をとり除く努力を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会・電話時等、入居者様の近況報告を行い、コミュニケーションをとりながら、なんでも相談できる信頼関係作りに勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にスタッフ間でサマリー等資料を読み話し合い、入居後も身体能力や認知度・生活習慣・思いを把握し、その方に応じた支援ができる様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もやしの根切り等料理の下ごしらえ・テーブルセッティング・洗濯物たたみ等お手伝いをして頂いたり一緒に行ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーションやイベントの案内を行い、一緒に参加して楽しんでいただいている。又体調が悪い時には食事の介助・通院介助等支援して頂き、一緒に本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人・知人の面会時は笑顔で挨拶を行い、又面会に来て頂けるような環境を作っている。入居者様やご家族に聞きとりをして外食や季節に応じた外出をしている。ご家族の協力でお墓参りやなじみの美容印にも行かれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に平等に声かけや耳を傾けるよう努めている。体操や談話・レクリエーションなどの自然な誘導で交流の支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院時は面会に行き、電話や訪問があった場合は相談や支援に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の起床や入浴・昼寝・食事等本人の思いや希望をうかがい意向に沿った支援ができる様会話を心がけ、スタッフ間でも話し合い検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、サマリーやフェイスシートの確認、ご本人・ご家族にも詳しくお話を伺って把握に努めている。又回想法やレクリエーション時にも把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック・顔色・しぐさや行動等に目配りしいつでも会話を心がけ、変化時は記録を残し現状を共有できるよう努めている。又できる事は積極的にして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録や申し送り・ミーティングをもとに意見や話し合いを行い、ケアプランを作成している。又定期的に評価もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かい記録を残すことにより、本人の状態やその方に応じたケアの対応などが共有できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に気づき、通院や併設の病院との連携で緊急時やその状況に応じた臨機応変な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩やお買い物時、エスコートしながらご自分のできられる事を見守っている。月に一回は外出・外食で楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望に応じているが、病院と隣接の為殆どが当病院を希望されている。医師も往診以外にも来所され、会話等で顔なじみで信頼関係を築けている。ご家族も安心されている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専門の看護職がいる為いつでも気づきや分からない事を伝え、状態変化に応じた適切な受診や看護を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院時はすぐにサマリーを作成し、問い合わせにも快く応じている。面会に行き状況等伺って、情報を得て早期退院に向け支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より現状を説明した上にその都度今後どうしたいのかの希望を伺い、こちらで出来る支援等を話し合い、一緒にターミナルケアを行っている。入居時に方針を伺ったり同意書を頂いている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故毎と急変時のマニュアルを作成し、日頃より目を通して行っている。勉強会なども行いすばやく対応出来るよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年2回の消防訓練が行われている。スプリンクラーの設置をしている。マニュアルを作成し実践できる様努めている。災害時には地域の方に施設を利用していただけるようにしたり、火災時等の時の協力もお願いしてある		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時にはノックや声かけを行い、その方に合った言葉使いと年長者を尊重する気持ちを心がけて対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がでてくるまで待ったり、傾聴しながら本人の希望の把握に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の都合とペースを大切にして、無理強いをしないようにして納得がいく様に説明している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時は一緒に洋服を選んだりして支援している。朝は髪を整えたりしている。月に一回はビューティヘルパーが来所されたり行きつけを利用したり、希望者は散髪に来てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に旬の物を出したり栄養のバランスを考えている。一緒にメニューを考えたり、好きな物をリクエストして頂いている。料理の下ごしらえやテーブルのセッティングをお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同じようなメニューや食材にならないよう心がけ、嚥下状態にも合わせている。食事量の把握や飲水の時間をもうけ、体調管理に気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの習慣が身についている。その方に合った仕上げ磨きや声かけ等も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行い失禁がない様行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや体操・歩行訓練等適度な運動を行い食事にも気を配っている。ヨーグルト・バナナなどを持ち込まれている方もいる。排泄チェック表で排便調整も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた曜日はあるが、時間はなるべく本人の希望に添えるよう調整している。その方に応じた対応やペースでゆっくりと入ってもらっている。入浴剤を入れたりして楽しまれている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間をとって頂いたり、夜は本人の眠りやすい明るさで休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、どうゆう薬を内服されているか確認している。又変更時は申し送りでスタッフに情報交換している。解らない所は看護師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、生け花の先生だった方にはお花を生けて頂いたり食材の下ごしらえや他の方の洗濯物たたみ等のお手伝いをお願いしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩をしたり、近所のお宅の花を見せて頂きお話をしたりしている。月に一度は外出や外食が出来る様計画している。日用品がなくなった時には近くのコンビニまで一緒に出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	100円ショップやショッピングセンターでのお買い物で好みの物を買って楽しんでもらい、ご家族には後日領収書をお渡しした。又日用品などをコンビニへ一緒に出かけ支払いをされています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方は居室にて自由にかけられたり、毎晩自宅へ希望されスタッフがダイヤルを押して電話をしている方もいる。電話の取次ぎや手紙のやりとりも行える様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングは外が見渡る大きな窓で廊下も広く、季節の花を飾ったり写真を貼ったり、月毎の工作を展示したりして楽しく過ごせる様に工夫している。又か換気も常に行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングも広くソファも各所に設置して、好きな所でゆったりと過ごせる様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は入居時本人とご家族と相談されて、タンスやポスター・使い慣れた物等を持ってきてもらい、ご自分のお部屋として自由に使っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を置いたりして解りやすく、廊下・トイレ・お風呂場等には手摺りを付け安全に自立した生活が出来る様支援している。廊下では起立訓練が出来ている		